


# 日本の伝統文化と草木染めセミナー レポート報告



神奈川インテリアコーディネーター協会  
色彩研究会  
2007／12



KIKI

開催日： 2007年12月12日(火)

開催場所：ハウスクエア横浜 4Fセミナールーム

神奈川インテリアコーディネーター協会で、色彩研究会主催による「日本の伝統文化と草木染め」の講演会を開催致しました。

今回、「株式会社染め道楽にしきや」代表取締役でいらっしゃいます、小林次郎様にお話をお願い致しました。

小林様は、先代から受け継いだ「手織り職人や草木染めの出来る職人を育てる」ことを大切にす和装店を営んでいらっしゃいます。

現在は、「できるだけたくさんの皆様に、染色や織物を趣味として楽しんでもらいたい」という気持ちで、「工房布礼愛(こうぼう・ふれあい)」として講習会や体験教室などを開き、若い方の育成にも力を注いでいらっしゃいます。

ご自宅には、江戸時代の大名の奥方様の着られた時代衣装が多く残され、こうした古い染物を見るにあたり、小林様には大きな発見があったそうです。

そこには、「黒髪の黒い瞳の黄色人種の日本人を美しく見せてくれる、補いの色」があることに気づかれ、4色の色のお話をして下さいました。

- ・ 紫色・・・紫草の根から戴いたもの
- ・ 朱色・・・茜の根より戴く
- ・ 黄色・・・楊梅皮（ヤマモモの樹皮）
- ・ 緑色・・・藍の水色＋キハダの樹皮

この4色は、どんな地色の着物にのせても調和する色だそうです。

今回お持ち頂いたお着物もその中の一つで、現在では「重要文化財」として、東京国立博物館に期間展示されているそうです。写真に写っておりますその着物にも、やはり4色が刺繍されておりました。

また、何百年の月日を経ても、色あせることなく、美しい風合いを持ち続けていられることは、地色にも刺繍糸にも、自然素材から作られた「草木染め」だからこそでしょう。



KICA

お話の中で、この4色にそっくりな化学染料染めの糸では、色合いが馴染まないと言われました。

そこでこの4色の糸で織られた一つの帯をいくつかの反物に重ねて実演して頂きますといきますと、紫色・灰緑色・ベージュ色それぞれの布すべてに、色合いが調和するのです。

また、お持ち頂いた草木染めのお着物も帯も大変美しく、手間と時間をかけられていることがよく分りました。



## まとめ

パーソナルカラーで似合わないといわれる色でも、草木染めの色なら馴染んでくれると伺いました。

逆に、化学染料が主流になっている今、色の相性がある中でこそ、コーディネーターの必要性があるとお話を続けて下さいました。

また小林様は、その4色の色を独自に研究・分析された資料もお持ち下さいました。「染物」に対する深い思いと、伝統を残したいというお気持ちが十分に伝わって参りました。



また、今回、次のようにお話しされていました。  
「皆が利益をあげる事だけを考え合理化を目指し、科学の進歩、生活様式の簡略化をもたらしているのですが、同時に文化を失っている。日本には企業としてしか生き残ることしかできない。」  
とても寂しい言葉でした。

工房布礼愛さんがされている「伝統を現在に生かし、未来へと伝える」ということを、今私達も見直さねばならない時期であることを、深く感じさせて頂いたセミナーでした。  
また同時に、「色を学ぶことは伝統文化を学ぶ」ことであったことにも、心より感謝しています。